

HEMPEDU BUMI ヘンペドゥブミ



<学術名>

andrographis paniculata
(アンドログラフィス)

<マレー名>

HEMPEDU BUMI (ヘンペドゥブミ)

<日本名>

センシンレン (穿心蓮)

<飲まれ方>

- ・感染症対策
- ・肝臓・咽頭炎
- ・インフルエンザ・活力
- ・デトックス
- ・コレステロール

<ニックネーム>

- ・地球の胆汁
- ・カプセルに入った応急セット

植物の使用部位:ハーブ全体

活性成分:

苦味ジテルペノイドラクトン(アンドログラフィオロイド)、ジテルペングルコシド、ジテルピン2量体およびフラボノイド。

働きすぎの肝臓

肝臓では数百の作用が行われ、「化学工場」になぞらえられます。肝臓は糖質、脂肪、蛋白質の代謝に関与します。胆汁を産生し、血液の不純物や毒性代謝物を濾過し、凝血因子を作り、使い古された赤血球を破壊します。肝機能が十分に働かない場合に、わたしたちの健康がさまざまな方向から影響を受けることは驚くに値しません。現代の生活ではいろいろな要因により絶えずストレス下に置かれているため、肝臓の主要な任務のひとつは、毒素を濾過するという機能となります。長引いた場合には、こうしたストレスが肝疾患をまねき、続いて毒性の負荷が過重になります。主なストレス要因は、環境汚染物質、食事により摂取する毒素、過酸化油、特定の薬物、喫煙、アルコールです。肝炎が重度のまたは長期の肝機能不全をもたらすこともあります。

このヘンペドゥブミ プラスに存在する独特のハーブは、消化性のトラブルから体内での毒素の過剰な蓄積によって生じるトラブルまで、働きすぎの肝臓の多くの症状を改善します。またヘンペドゥブミ プラスは、飲食物の摂取や汚染物質が過剰にある場合の予防的療法としても推奨されています。

ヘンペドゥブミ プラスの配合ハーブの作用は次の通りです。

- 食事および環境による毒素の有害な作用を抑制
- 健常な肝機能の維持
- 消化のプロセスを強化

科学的研究

強力な肝臓保護薬

研究により、ヘンペドゥブミは東南アジア全体で伝統的に肝臓の強壮薬として長く利用されてきたことが確認されています。

研究室での実験や臨床試験により、中毒性肝障害、肝機能不良、および肝炎の場合にその有効性が実証されています。

主な活性成分であるアンドログラフィオロイドは、ミルクシスルから抽出するシリマリン以上に強力な利胆作用(胆汁量、胆汁酸塩、および胆汁酸が増加)(9)と肝保護作用(10)をもたらすことが判明しています。いくつかの試験では、葉のエキスがアンドログラフィオロイドの単独使用以上の強力な作用を示し、このハーブ全体を利用するメリットが確認されています。



また、強力な細胞の抗酸化作用(11)についても、その成分である、アンドログラフィサイド(andrographisides)およびネオアンドログラフォロイド(neoandrographolides)により実証されました。

これらにより、肝臓内での脂質過酸化反応、薬物代謝および酵素活性の上昇における有益な作用が示されました。肝細胞の損傷に関連することの多い、グルタミン酸ピルビン酸トランスアミナーゼおよびアルカリホスファターゼの酵素の漏出も抑制します。

この作用はシマリニンと同等の強さであることが明らかになりました。



苦味強壯薬および消化刺激薬

消化器系に作用するヘンペドブミの苦味強壯薬は、全身衰弱、赤痢、寄生虫侵入のほか、ガスによる膨満感に関連する特定の型の消化不良に対して用いられています。

キリキリ痛や、不規則な便通、食欲減退を緩和することも明らかになっています。中国の研究では、急性の細菌性赤痢と腸炎に対する明白な有益性が示されています。(3)



心血管疾患およびコレステロールの蓄積

センシンレンもまた、心血管疾患やアテローム性動脈硬化症に役立ちます(12)。中国の同済医科大学循環器科が実施したある研究では(13)、センシンレンにより高コレステロールの食事を摂取後のアテロームの蓄積が有意に緩和されることが判明しました。

これは、魚油(70%を超えるオメガ3多価不飽和脂肪酸)の抗アテローム硬化作用より優れていることが明らかになりました。

シンガポール国立大学薬理学部が実施した別の研究では(14)、センシンレンの水溶性エキスは腎臓内のフリーラジカルレベルの低下によるのと同様に、循環器関連の血漿中のアンジオテンシン変換酵素(ACE)活性の低下によって、血圧を降下させることが判明しました。中国でさらに研究したところ(15,16)、センシンレンは血栓症の可能性を低下させることにより、心臓発作を予防することが明らかになりました。

また、心臓発作後に心筋がさらに損傷しないよう保護することも実証されました。

免疫システムの向上

細菌性およびウイルス性呼吸器感染症の臨床試験では良好な効果が実証され、免疫賦活作用(7)を特に食作用(3)において暗示しています。ヒトでの試験により、センシンレンは咽頭扁桃炎に有用で、発熱と咽喉痛を緩和することが明らかにされています。

マウスの試験では、センシンレンの流エキス剤と分離されたアンドログラフォロイドは、抗原特異的免疫応答および抗原非特異的免疫応答をいずれも促進させました。

このハーブ全体のエキスからは、より強力な免疫賦活効果が得られました。センシンレンの根の流エキス剤は、ヒトのマラリア感染に対し、生体外で強力な駆虫活性を示しました。

References

1. Bone, K : Clinical Applications of Ayurvedic and Chinese Herbs (1996)
2. Burkhill, IH: A Dictionary of the Economic Products of the Malay Peninsula Pg. 157
3. Chang H M and But P P: Pharmacology and Applications of Chinese Materia Medica, Vol 2, World Scientific, Singapore (1987)
4. Indian Journal of Pharmaceutical Sciences, Pg.48 (1984)
5. Medicinal Plants of India, ICMR, Vol. I, Pg.64
6. Nadkarni, K.M. Indian Materia Medica, Pg.101
7. Puri, A et al: J Natural Products 56, 995 (1993)
8. Goh, SH et al: Malay Med Plants Treatment of Cardiovascular Disease (1995)
9. Shukla B et al: Planta Medica 58, 146 (1992)
10. Visen, P K et al: J Ethnopharmacology 40, 131 (1993)
11. Kapril, A et al: Biochemical Pharmacology 46, 182 (1993)
12. Guo, Z L et al: J Tongji Med University 14, 49 (1994)
13. Wang, D W and Zhao H Y: Chinese Med J 107, 464 (1994)